

新規検査・治療に関する報告

研究分担者 駒形嘉紀 杏林大学 腎臓・リウマチ膠原病内科 教授

研究要旨 領域横断分科会の活動として、血管炎治療領域における新たな薬剤や新たな検査法の開発状況を調査した。他の疾患治療のために開発された各種抗体製剤の、AAVを中心に血管炎への適応拡大に向けた各種治験が世界において幅広く施行されていた。また種々の新たな検査法の開発が行われていた。それらを当研究班班員に周知することにより、血管炎診療・血管炎研究のさらなる発展に資することができた。

A. 研究目的

領域横断分科会の活動として、血管炎治療領域における新たな薬剤や新たな検査法の開発状況を調査しそれらを当研究班班員に周知することにより、血管炎診療・血管炎研究のさらなる発展に資することを目的とする。

B. 研究方法

新たな薬剤の開発・治験進行状況に関しては、毎年開催される Annual Vasculitis Investigators Meeting における世界各国の血管炎研究者からの治験状況報告、および clinicaltrial.gov からの情報を中心に収集した。新たな検査法の情報については、ACR meeting での発表および clinicaltrial.gov からの情報を中心に収集した。

C. 研究結果

2022年11月の Annual Vasculitis Investigators Meeting においては、各種血管炎に対する進行中の国際治験の報告がなされた。主なものとしては、TAK・GCA に対するウパダシチニブ、GCA に対するセクキヌマブ(anti-IL17)・グセルクマブ(anti-IL23 p19)、MPA/GPA に対するレフルノミド・アバタセブ

ト・オピヌツズマブ(anti-CD20)、EGPA に対するリツキシマブ・ベンラリズマブ・デペモキマブ、様々な血管炎に対する低用量ナルトレキソンなどがある。上記以外で ClinicalTrial.gov で公表されている Phase II 以上の血管炎介入試験としては TAK・GCA に対するウステキヌマブ、TAK に対するトファシチニブ、GCA・TAK・PAN に対するリツキシマブ・インフリキシマブがあった。ClinicalTrail.gov や ACR meeting で新規に報告された検査法として主だったものは、GCA における PET の tracer として CXCR4 を用いたもの、川崎病の予後診断にカルシウム結合蛋白である S100A12 を用いるもの、GCA において microRNA である miR-146a, b が上昇しているという研究、LVV と AAV において好中球活性化を示す calprotectin と fMET が上昇しているというもの、AAV における CD5+制御性 B 細胞の試験などがあった。

D. 考察

他の疾患治療のために開発された各種抗体製剤の、AAV を中心に血管炎への適応拡大に向けた各種治験が世界において幅広く施行されている。欧米と日本での血管炎患者には遺伝的素因の違いもあるため、

できるだけ各種治験に日本も積極的に参加していく必要がある。

E. 結論

現在進行中の国際治験で用いられている各種血管炎に対する新規薬剤を当研究班の班員に周知することにより、今後の血管炎研究の発展に寄与することができた。